

経済・金融 フラッシュ

雇用統計 08年8月 ～労働需給の悪化が鮮明に

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

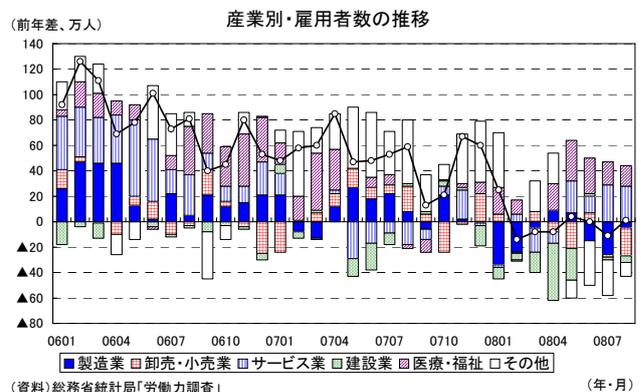
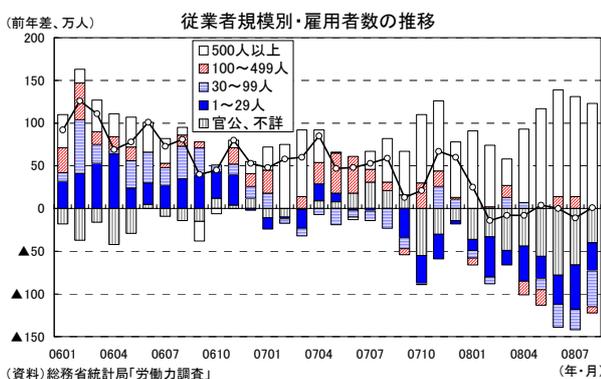
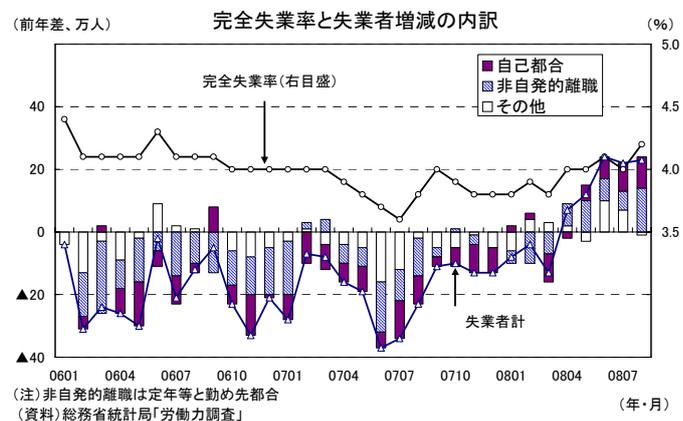
1. 中小企業以外の雇用も減少

総務省が9月30日に公表した労働力調査によると、8月の完全失業率は前月から0.2ポイント悪化し4.2%となった（ロイター事前予想：4.1%、当社予想も4.1%）。

雇用者数は前年比0.0%（7月：▲0.2%）のほぼ横ばいとなったが、自営業主・家族従業者の大幅な減少が続いたため、就業者数は前年比▲0.6%（7月：同▲0.8%）と引き続き大幅な減少となった。失業者数は前年に比べ23万人の増加（7月は22万人増）となり、4月以降増加が続いている。

失業者の内訳を求職理由別に見ると、自己都合が107万人と前年よりも10万人の増加、定年や勤め先都合による非自発的離職による者が89万人と前年よりも15万人の増加となった。

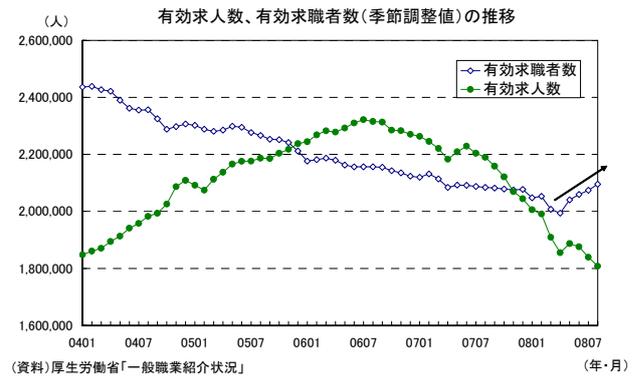
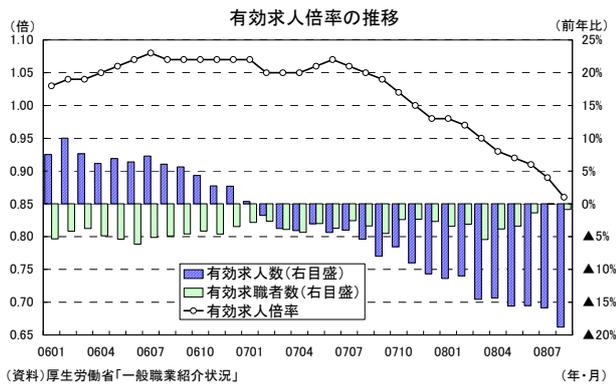
雇用者数の内訳に従業員規模別に見ると、29人以下の中小企業は前年比▲33万人減と12ヵ月連続で減少となったほか、30～99人の企業でも前年比▲42万人減と4ヵ月連続の減少、100～499人の企業でも前年比▲7万人減と3ヵ月ぶりの減少となった。企業規模にかかわらず雇用情勢が悪化し始めている。産業別には、生産活動の停滞を反映し、製造業が3ヵ月連続で減少となったほか、卸・小売業も22万人減と大幅な減少となった。



2. 求職者数の増加は雇用情勢の厳しさを反映

厚生労働省が9月30日に公表した一般職業紹介状況によると、8月の有効求人倍率は前月から0.03ポイント低下し0.86倍となった（ロイター事前予想：0.88倍、当社予想も0.88倍）。有効求人倍率の悪化は7ヵ月連続である。

有効求人数は前年比▲18.8%（7月：同▲15.9%）と減少幅がさらに拡大した。有効求人の方先行指標である新規求人数は前年比▲21.3%と7月の同▲13.5%からマイナス幅が拡大し、新規求人倍率も7月の1.28倍から1.24倍へと低下した。有効求人倍率の低下傾向は当面続く可能性が高い。



これまで有効求職者数は、雇用情勢の改善、失業者の減少を反映し、長期にわたり減少を続けてきた。しかし、08年度入り後は失業者が増加に転じると歩調を合わせる形で有効求職者数の減少幅（前年比）が縮小し、季節調整値では5月以降4ヵ月連続で増加している。このことは最近の雇用情勢の厳しさを反映した動きとも言えるだろう。